

5月4日のウクライナ情報

安齋育郎

①なぜ米国がウクライナの生物研究所に資金提供したのか、米国民にはその理由を知る権利がある = 米国家情報長官 (2025年5月2日)

米国のギャバード国家情報長官はシリウス XM ラジオの取材に応じた中でウクライナにおける生物研究所に言及、なぜ米国が資金援助を行ったのか、国民は知る権利があると発言した。

<https://twitter.com/i/status/1918172152966332612>



<https://sputniknews.jp/20250502/19848750.html>

②米宇の取引は Win-Win、中国流略奪まがいの取引とはわけが違う = 米財務長官 (2025年5月2日)

ベッセント財務長官は FOX ニュースの取材に応じた中でウクライナとの鉱物資源協定について言及、これは双方にとってメリットのある合意だとして、中国による「略奪まがい」の協定とはことなると強調した。

<https://twitter.com/i/status/1918142283515609140>



<https://sputniknews.jp/20250502/win-win-19848649.html>

③米大統領が国家安全保障担当補佐官を国連大使に指名、更迭との見方も（2025年5月2日）

米国のウォルツ大統領補佐官（国家安全保障担当）とウォン副補佐官が役職を解かれた。FOXニュースが関係筋の話として報じた。

これに先立ち、イエメンに対する米軍の攻撃について政府高官らがシグナルのグループチャット上で情報のやり取りを行ったとし、ウォルツ補佐官も批判の対象になっていた。

この事態を受け、トランプ大統領は「トゥルース・ソーシャル」に投稿した中で、ウォルツ補佐官を国連大使に指名すると発表した。空席となる国家安全保障問題担当のポストは暫定的にルビオ国務長官が兼務するとのこと。

ヴァンス副大統領によると、これは「解任」ではなく、「昇進」であり、シグナルのチャットをめぐる不祥事とは無関係だという。



https://sputniknews.jp/20250502/19847667.html?rcmd_alg=collaboration2

④ ルビオ米国務長官 「ロシアとウクライナの考えはまだ遠く離れている」（2025年5月2日）



アメリカのルビオ国務長官は、ロシアとウクライナの和平交渉について、「彼らの考えはまだ遠く離れている」と話し、アメリカの仲介のあり方について、近く判断する考えを改めて示しました。

ルビオ国務長官は1日、FOX ニュースの番組で、和平交渉の状況について、「ウクライナの今の考えとロシアの今の考えをわかっているが、彼らはまだ遠く離れている」と説明しました。

その上で、「和平を実現するには、すぐにでも突破口が開かれないといけない。そうでなければ、トランプ大統領は今後どれくらいの時間を仲介に割くべきか決断をしなくてはならなくなる」と強調しました。

ルビオ長官は交渉に進展が見られない場合、今週中にもアメリカの仲介を見直す考えを示していますが、両国の考えには依然として大きな開きがあるとの認識を示した形です。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/4c0de92f62e8ab456b108fe14ee20ce29eedb928/images/00>

⑤ 「領土交渉よりも停戦が先決」 欧州提案のウクライナ和平案判明（2025年4月25日）

【キーウ、モスクワ共同】ロシアとウクライナの和平交渉を巡り、欧州諸国とウクライナが米国に示した提案の詳細が25日、ロイター通信の報道で明らかになった。領土交渉よりも停戦実現が先決と主張し、米国による「強力な安全の保証」を要求する内容。ウクライナに領土譲歩を迫る米国の和平案への配慮がにじむ部分もあるが、依然として両案の開きは大きい。和平交渉の難航は必至。

ウィットコフ米中東担当特使は25日、モスクワでプーチン大統領と会談した。26日にはバチカンでのローマ教皇フランシスコの葬儀に合わせ、トランプ米大統領ら各国首脳が和平問題を協議する可能性がある。

欧州とウクライナの提案は、ロンドンで23日に開かれた会合で米側に示された。

ロシアがウクライナ東・南部4州の大部分を占領し、クリミア半島も併合した領土問題については「完全で無条件の停戦後に協議」と明記。領土交渉は「現在の支配線に基づいて開始する」とし、ロシア占領地域を事実上承認するとの米和平案に配慮を示した。



24日、ロシア軍によるミサイル攻撃があった現場＝ウクライナ・キーウ（共同）（KYODONEWS）

<https://news.yahoo.co.jp/articles/971053f34625001b0fa9632ed737e261ef962d70/images/00>

00

⑥ イタリアの政治学者アレサンドロ・オルシーニ（2025年5月2日）

「もしロシアがバルト三国を侵略する日が来れば、それは彼らの問題です。バルト三国は、自らの反ロシア政策の責任を単独で負わなければなりません。

イタリアは完全に手を引いて、一発の弾丸も供給すべきではありません。一部の人は「しかし、NATO 条約の第 5 条があるではないか！」と主張するでしょう」。

「もちろん、その条項は攻撃を受けた国に送る武器の種類を明示していません。イタリアはヘルメットやブーツの提供に限定することも可能です。

イタリアが誤りを犯せば、まず自国が代償を払うことになります」。

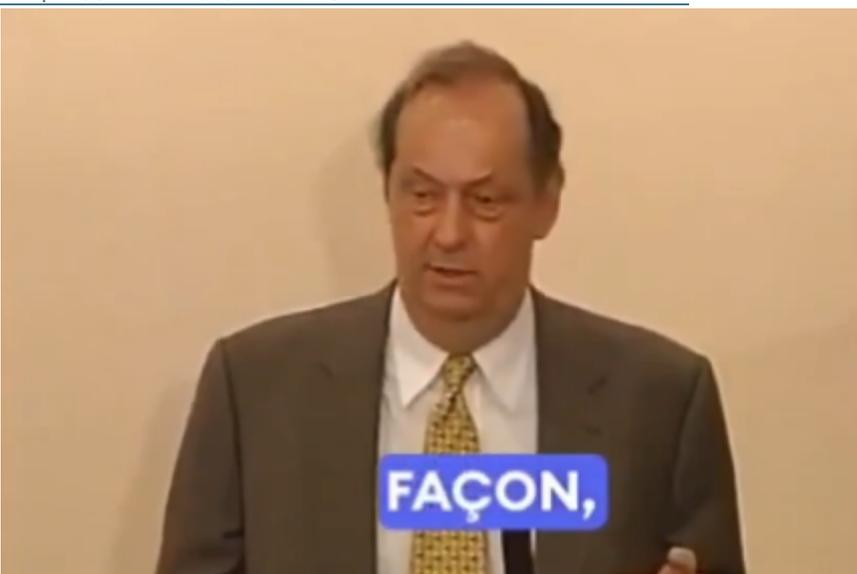
「エストニア、ラトビア、リトアニアがロシアへの対応で誤りを犯し、戦争、戦争、さらに戦争しか提案しないのであれば、その誤った政策の代償を自国の金と命で支払うのは当然です」。



<https://x.com/tobimono2/status/1918150079644598405?s=09>

⑦ 米上院議員ビル・ブラッドリー（オバマ政権の CIA 長官候補）の 2008 年の発言（2025年5月2日）

<https://x.com/i/status/1917977428829606326>



「NATO の拡大は裏切りであり、莫大な無駄遣いだった。ロシアが倒れているところに蹴りを加えるような、無意味な屈辱だった」。

「結果どうなったか？モスクワは立ち直った。そして今、西側は自ら作り出した「脅威」について泣き言を言っている」

米上院議員ビル・ブラッドリー（オバマ政権の CIA 長官候補としても名前があがった）は 2008 年に、まともな戦略家なら誰もが知っていることを既に述べていた。

<https://x.com/i/status/1917977428829606326>

⑧ ウクライナの兵士がウクライナ政府に反旗を翻し、ロシアと戦う（2025 年 5 月 1 日）

この独占最前線レポートでは、私パトリック・ランカスターが、現在ロシア軍とともに戦っている元ウクライナ軍兵士たちの貴重な素顔をお届けする。ロシアとウクライナの紛争地帯の奥深くから、彼らはマキシム・クリヴォノスにちなんで命名された分遣隊に参加した経緯と理由を説明する。彼らは動機、訓練、戦場での経験、そしてウクライナの未来への希望について語っている。西側メディアが報じない、兵士たち自身から直接聞くことができる。

<https://youtu.be/-wRsr397zhg>



ある観点から見ると、西側諸国はロシアを他に選択肢がないような状況に陥れた

<https://www.youtube.com/watch?v=-wRsr397zhg>

⑨ 【頑張れ！ウクライナ市民】（2025 年 5 月 1 日）

<https://x.com/i/status/1917727515407442308>



https://x.com/Kumi_japonesa/status/1917727515407442308?s=09

⑩強制収容所ウクライナUAから脱出できた男性達（2025年5月1日）

有刺鉄線を乗り越えて、隣国へ逃げられることができた。脱出を手伝った【脱出会社】、運転手、ルートを計画した人に感謝してる。

ただ一緒にいたもう1人は有刺鉄線を超える時に国境警備隊のドローンに見つかって、駆けつけた国境隊に有刺鉄線に絡まったままボコボコにされた。

<https://x.com/i/status/1917680966430253252>



<https://x.com/Mari21Sofi/status/1917680966430253252?s=09>